PSⅣ-1　北陸地域におけるリゾート開発の可能性

○金沢工業大学工学部　正員　安島　博幸
（社）地域振興研究所　遠藤　聡
（社）地域振興研究所　水野　雅男

1．研究の背景と目的

わが国の産業構造が大きく転換していく中で、内需の拡大と地域振興の名の下にリゾート地整備が注目を集めている。北陸においても、リゾート開発への期待は大きいのであるが、先行する地域が想定する、南欧のマリーナを中心とする開発、北米の山岳スキーリゾート開発などの大規模開発は、必ずしも当地の立地条件、気象条件を考えると適当なモデルにはなり得ない。そこで本研究においては、わが国におけるリゾートの形成の歴史とそこに表われたコンセプトを分析するとともに、気象条件には恵まれていないにもかかわらず、リゾート活動の盛んな北欧などの先進諸国のリゾートの調査を行ない、リゾートの概念とリゾートライフに関する理解を深めつつ、成立条件を明らかにした。これにより、リゾートにはあまり有利とは考えられない北陸地域において、いかなるリゾートの展開があり得るかを明らかにしようとするものである。

2．調査・分析の方法

（1）北陸のリゾート開発の現況と人口・所得・休暇など社会条件、気象・地形などの自然条件を整理した。

（2）リゾートの原型を求め、忘れられたコンセプトを明らかにするために、わが国の歴史を遡り、過去に行なわれたリゾート開発や別荘について文献調査及び現地調査に基づいて分析を行なった。

（3）北陸でのリゾートのモデルを見出すべく、比較的気象条件に恵まれない北欧と西独、米国東海岸の都市近郊リゾートを調査した。調査したリゾート地はフィンランド４ヶ所、スウェーデン１ヶ所、西独６ヶ所、スイス１ヶ所、米国４ヶ所の計１６地区である。

3．わが国の歴史的リゾートから得られたコンセプト

わが国の伝統的別荘や明治以降に開発された近代的なリゾートのコンセプトを次のように抽出した。

〈江戸時代以前の伝統的な別荘、保養地〉

①理想郷型…都市生活から離れて、近郊に風流生活を楽しむための理想的空間を求める考え方が平安時代からあった。宇治の平等院などである。

②茶の湯・交流型…室町時代以降、茶の習慣が定着し、人を招いて茶の湯を行なう場所に環境のよい所が選ばれた。東山殿が古いが、この伝統は戦前の金沢市内の別荘にも引き継がれている。

③温泉保養型…温泉は古くから療養・保養の場として利用されてきた。江戸時代の湯治は２～３週間という長期間の滞在が一般的であった。

④安全担保型・鍛錬（スポーツ）型…大名の江戸にあった中屋敷・下屋敷は災害時の避難場所であると同時に、鷹狩りや茶の湯、能を催す場としても使われた。

〈明治時代以降、外国人によって西欧から導入されたリゾート〉

⑤避暑・避寒型…欧米から来日した外交官、貿易商、宣教師達は、蒸し暑い日本の夏を避けるために高原・海浜へ別荘を建て、高原や海浜のリゾート地化を促進した。

⑥温泉保養型…箱根や熱海では、湯治に加えて、温泉付別荘も増え、週末利用や定住も現れ始めた。

⑦農場経営拠点型・隠居型…那須では華族や軍人が政府から払い下げを受けた土地で大規模農場の経営に着手し、拠点として別荘を設けた。退役後は晴耕雨読の隠居生活に使われたものもある。

⑧近郊保養型…都市近郊の風景の良い場所に保養や客の接待のための別荘を設けることがある。原敬の鎌倉腰越別荘や福井の実業家大和田荘七の別荘などである。

⑨都市内交流型・書斎型…都市内においても本宅の近くの風光の良い場所に茶室、茶庭を設け、客を接待したり、ものを学んだりするための別荘が建てられた。

4．欧米のリゾートから得られたコンセプト

調査したリゾート１６地区を資源、リゾート地としてのテーマ、需要の主たる発生地である都市との関係の３つの視点から類型化した（表－１）。資源類型は、海浜、湖、山岳などの自然を中心としたタイプ、温泉保養を主体とするタイプ、ゴルフや田園など人工的自然に依拠するタイプに分けられる。

リゾート地のテーマは①避暑・避寒、②温泉保養・療養、③近郊保養（週末を中心に頻繁に使われるスポーツなどを楽しむことを目的とする）、④創作（趣味や創作活動を目的に滞在）、⑤リタイヤメント（退職後余生を過ごす）、⑥コンベンション、⑦ゴルフ・ヨット・スキーを楽しむ、などのタイプに分けられる。

都市との関係では、①「大都市から300km以上離れた地区」は、利用は夏を中心とした季節型となり、自然の中で長期滞在する使われ方が多く、宿泊は別荘ではなく、レンタル形式の割合が高い。②「大都市から100km程度までの地区」は週末利用の比重が増え、自己所有の別荘が増える。③「自立したリゾート都市」は温泉保養地にみられ、都市機能が充実し、保養客、会議客や買物客まで集める。④「都市機能を③などに依存する小保養地」は、そこで持つことのできない文化的機能を近くの都市で補っている。

表－１　調査した欧米リゾートの類型化

類型 ＼ 調査地区	ハメンリンナ	サヴォリンナ	プンカハリュー	ミッケリ	バックストホルム	バーデン・ヘレンアルプ	バーデン・バーデン	ヴィルト・バート	ラウター・バート	バーデン・デュルハイム	テイテイ・ゼー	バーデン	コッド岬	キャンキル・マウンテン	ブインガー・レイク	バインハースト
	F	F	F	F	S	D	D	D	D	D	D	H	A	A	A	A
資源 ①海浜					◎								◎			
資源 ②湖	◎	◎	◎	◎							◎				○	
資源 ③山岳														◎	◎	
資源 ④温泉保養都市							◎					◎				
資源 ⑤温泉保養地						◎		◎		◎						
資源 ⑥ゴルフ																◎
資源 ⑦田園									◎							
テーマ ①避暑・避寒		◎	◎	◎									◎	○	◎	
テーマ ②温泉保養・医療		○				◎	◎	◎	○	◎		◎				
テーマ ③近郊保養	◎				◎	○		○	◎		○			◎		◎
テーマ ④創作											○			○		
テーマ ⑤隠居					◎						○					○
テーマ ⑥コンベンション	◎		○				◎							○		
テーマ ⑦ゴルフ														○		◎
テーマ ⑧ヨット	◎	○	◎	◎	◎						◎		○		◎	
テーマ ⑨スキー											○			○	○	
都市との関係 ①(大)都市から300km以上離れたもの		◎	◎	○									○		◎	
都市との関係 ②(大)都市から100km程度までのもの	◎				◎						◎			○		◎
都市との関係 ③比較的独立しているリゾート都市・地区							◎			◎		◎				
都市との関係 ④都市機能を③等に依存している保養地						◎		◎	◎							

＊◎は主要なもの、○は該当しているもの
F:ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ　S:ｽｳｪｰﾃﾞﾝ　D:ﾄﾞｲﾂ　H:ｽｲｽ　A:ｱﾒﾘｶ

5．結論……北陸型リゾート成立に向けての提案

（１）北陸において成立するリゾートのパターン。

①北陸都市住民の週末利用を中心に成立する小規模リゾート、②リゾートの母都市機能を果たし、文化資源が豊かな金沢や輪島との密接な関係を持って成立するリゾート、③周遊観光の途中で滞在するリゾート、④個々には小規模であるが、それぞれが特色を持ち相互に補完しあって成立するリゾート

（２）北陸の資源条件に基づくテーマを軸に、リゾートのモデルとして次の７タイプを提案する（表－２）

①小規模温泉型…山間の小さな湯治場的温泉を現代風に再開発するタイプ

②大規模温泉型…既存の大温泉地を高齢者医療、コンベンションを導入して再開発する

③アトリエ書斎型…都市近郊にあって頻繁に通うことのできる静かで知的な創造的空間

④海浜マリーナ型…外郭施設を簡素化したマリーナを中心に滞在空間を整備する

⑤高原スキー型…現在スキー場のある高原の利用の通年化を図り、滞在環境を整備する

⑥ゴルフ型…ゴルフ場に宿泊機能を設け、家族で楽しめる他のスポーツ施設も整備する

⑦山村型…過疎の山村に伝統的な風景と生活を求め、理想郷、創作、隠居などのテーマを活かす

表－２　リゾートのテーマとモデルの関連

モデルタイプ ＼ テーマ	小規模温泉	大規模温泉	アトリエ書斎	海浜マリーナ	高原スキー	ゴルフ	山村
理想郷			△		△		○
茶の湯		△	△				○
温泉保養	●	●					
近郊保養			○				●
創作			●				○
ﾘﾀｲﾔﾒﾝﾄ	△	○	○			△	○
ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ		○			○	○	
ｽﾎﾟｰﾂ		○		●	●	●	
避暑避寒				△	●		△

●：自主的　○：関連あり　△：やや関連あり

なお、本研究は総合研究開発機構（NIRA）の昭和62年度の助成研究として実施したものである。